

第5回地域事業

2012年12月20日(木) 午後2時～午後4時

鷺宮区民活動センター 洋室2号

室内楽コンサート

林 直樹/クラリネット (東京フィルハーモニー交響楽団、武蔵野音楽大学講師)

蛭海 たづ子/ヴィオラ (東京フィルハーモニー交響楽団)

多田 直子/ピアノ (武蔵野音楽大学付属高校・音楽教室講師、元ハンブルク ブラームス音楽院講師)

【内容】

このコンサートは、身近な場所で生のクラシック音楽を聴くことができるということが好評で、当日は開場前から大勢の皆さまがお見えになり、約150の方が鑑賞されました。

演奏していただいた林直樹さんは西中野小学校、北中野中学校のご出身で現在白鷺2丁目在住、蛭海たづ子さんは若宮小学校に5年生まで通われ、現在白鷺1丁目在住。ともに地域にゆかりの深い方です。多田直子さんは東京フィルハーモニー交響楽団とはたびたび共演され、林さんのリサイタルでは伴奏をなされたそうです。

音響が良くない上に、ピアノはアップライトという悪条件の中でしたが、3人の方に息の合った演奏を聞かせていただきました。

1曲目はモーツァルトの三重奏「ケーゲルシュタット・トリオ」。ボーリングの前身のケーゲルシュタットに興しながら作曲されたといういわれが残る曲です。クラリネット、ヴィオラ、ピアノの個性が溶け込んで、モーツァルトらしい軽やかさにあふれた曲でした。

続いて楽器紹介。三人の方がご自分の経験などを交えながら、楽しいお話とともに楽器を紹介し、1曲ずつ演奏していただきました。クラリネットはシュライナーの「だんだん小さく」。観て聴いて楽しみながらクラリネットについて良くわかる曲でした。ヴィオラは成田為三の「浜辺の歌」。馴染みのある曲だけに、ヴィオラの美しい音色をじっくり聴くことができました。ピアノはブラームスの「ワルツ15番」。華奢な多田さんがお弾きになる繊細で力強い音色が響きわたりました。

休憩に引き続き、ソロ演奏。クラリネットで演奏されたのはアーノルドの「ソナチネ」。ジャズの影響を受けたと言われるクラリネットのためのソナチネですが、林さんの個性と相まって明るく楽しい演奏でした。ヴィオラはエルガーの「愛の挨拶」とクライスラーの「愛の悲しみ」。曲調は異なりますが、どちらも微妙で優しい旋律が奏でられました。ピアノはドビュッシーの中でも有名な曲「月の光」。流れるような美しい演奏に、月の淡い光の広がりが見えるようでした。



最後はブルッフの「三重奏曲」より4曲。聞きなれない曲だったと思いますが、落ち着いた美しい曲にそれぞれの楽器が響き合った素晴らしい演奏で、聴いている全員が惹きこまれました。



感謝の気持ちを込めて花束を贈呈したあとに、アンコール曲として「ホワイトクリスマス」を演奏していただきました。今の季節ならではの曲をクラシックで聴くことができ、貴重な時間となりました。

演奏していただいた皆さま、ありがとうございました。

【アンケートから】

- このようなこじんまりした場でも、音は心地よく伝わりました。
- 音楽もお話もとても楽しかったです。
- 一流の現役の方々の音楽が生で聴けて良かった。これからも続くとうれしいです。
- 楽しい音楽会でした。年を取ると出かけることが大変になるので、地元で開いていただきありがとうございました。
- クラリネットの超絶技法(呼吸法と指の動き)には驚きました。優しく力強いピアノ演奏も良かったし、普段オーケストラの中では聴き分けにくいヴィオラの音色の良さを再認識できました。
- 久しぶりに生演奏を聴いて気持ちの安らぎを感じました。楽器の説明も楽しかったです。

「素晴らしいコンサートだった」、「また開催してほしい」、という声が多数寄せられました。

多くのクラシックコンサートでは、未就学児や落ち着いて聴いてられない子どもさんは入場をお断りするか、途中退場をお願いするものですが、今回は会場に入っていました。公演会場が地域の集会室でもある身近な場であること、普段子育てに忙しい方にも本物の音楽を聴いていただきたいこと、などの理由によるものです。